

結城秀康愛蔵の槍 「御手杵」



御手杵の槍（結城蔵美館画像提供）※これはレプリカです。

お て ぎ ね
御手杵は島田（嶋田）^{よしすけ} 義助作の槍の異名で、下総国結城城主であった結城晴朝が所持していました。その鞘が手杵形をしていたのが名前の由来です。また、「日本号」・「蜻蛉切」とともに「天下三（名）^{てんがさん} 槍^{めい そう}」に数えられます。

後に晴朝の養子となった結城秀康の手にわたり、秀康の五男で結城氏の名跡を継いだ松平直基^{なおもと}の子孫、松平大和守家^{まえばし}（前橋・川越松平家^{かわごえ}）が受け継ぎました。